

# やまぐちっ子学力向上だより

第 120 号 R4.8.9

山口県教育庁義務教育課

## 全国学力・学習状況調査の結果が公表されました。

今回の調査において、教科に関する結果については、小学校では、国語は全国平均を下回り、算数は全国平均と同程度、理科は全国平均を上回るという結果でした。中学校では、国語、数学は全国平均を上回り、理科は全国平均と同程度という結果でした。

全国平均を上回る、また、同程度という結果については、児童生徒たちの努力はもちろんのこと、新型コロナウイルス感染防止対策を徹底しながら、各学校が学びを止めることなく、工夫して授業改善に取り組んでいることや、保護者や地域の方が児童生徒たちの学びをサポートしてくださっていること、市町教育委員会が学校現場を支える働きかけを行ってきたことなどの成果が表れたものと考えています。

一方で、知識や技能を活用することや、問題場面を捉えて、目的に応じて自分の考えを書いたり説明したりすることについては、課題が見られました。今後も課題解決のための取組を進めていく必要があると考えています。

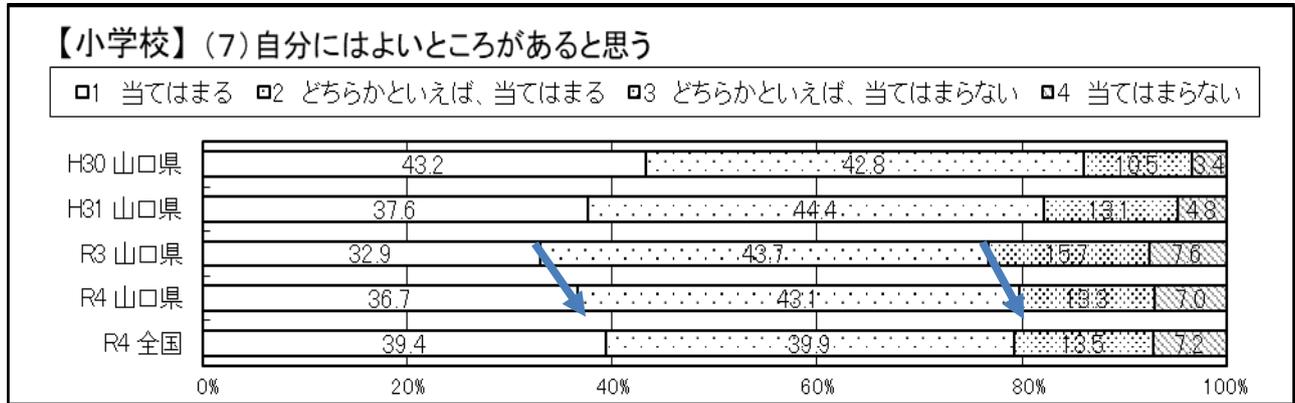
山口県と全国の平均正答数と平均正答率を下にお示しします。平均正答率については、平成29年度から、都道府県等の状況は整数値で、全国の状況は小数第一位までの数値で提供されています。

小学校	平均正答数（問）		平均正答率（％）	
	山口県	全 国	山口県	全 国
国 語	9.1/14	9.2/14	65	65.6
算 数	10.0/16	10.1/16	63	63.2
理 科	10.9/17	10.8/17	64	63.3

中学校	平均正答数（問）		平均正答率（％）	
	山口県	全 国	山口県	全 国
国 語	9.8/14	9.7/14	70	69.0
数 学	7.2/14	7.2/14	52	51.4
理 科	10.4/21	10.4/21	49	49.3

質問紙調査についてです。

下の帯グラフは、「自分にはよいところがあると思う」に対する小学生の回答です。山口県の児童生徒は、全国と比べて肯定的な回答をしており、減少傾向のあった令和3年度調査に比べて、その割合は増加していることが分かります。



このような、望ましい状況もたくさんありますが、課題の見られる状況もあります。下の表に県内の状況を一部紹介します。各校におかれましては、それぞれのデータを分析し、子どもたちの実態把握の一つとして活用していただければと思います。なお、山口県全体の詳細なデータについて知りたい場合は、国立教育政策研究所のWebページにアップされていますのでご確認ください。(右のQRコード参照)



	よい項目	課題の見られる項目
児童生徒質問紙	<ul style="list-style-type: none"> <li>○友達と協力するのは楽しいこと。</li> <li>○前年度までに受けた授業で、コンピュータなどのICTを毎日使用したこと。</li> <li>○地域の大人に授業等で勉強を教わったり、一緒に遊んでもらったりすること。</li> <li>○話合いで自分の考えを深めたり広げたりすること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●自分で計画を立てた学習。</li> <li>●平日の学習時間。</li> <li>●地域や社会をよくするために何をすべきかを考えること。</li> <li>●道徳の時間で考えを深める、グループで話し合うこと。</li> </ul>
学校質問紙	<ul style="list-style-type: none"> <li>○児童生徒の姿や地域に関するデータ等に基づいたPDCAサイクルの確立。</li> <li>○課題を設定し、話し合い、まとめ、表現する学習活動。</li> <li>○各教科等で身に付けたことを、課題解決に生かす機会の設定。</li> <li>○特別支援教育についての理解と、児童生徒の特性に応じた指導の工夫。</li> <li>○近隣等の学校と教育課程に関する共通の取組を行うこと。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●配備された1人1台端末の家庭での利用。</li> <li>●児童生徒が行った家庭学習の課題について、指導改善や学習改善に生かす取組。</li> </ul>

4月に調査を受けた子どもたちに早く結果を提供し、学力の定着・向上に結びつけるために、7月に結果が公表されています。その趣旨を踏まえて、できるだけ早く子どもたちに個人票を配付し、学び直しの充実や指導の工夫・改善に取り組みましょう。

## 誤答分析から日頃の授業を見直しましょう。

今年度の調査では、授業でのタブレット端末の利活用を想定した問題等、GIGAスクール構想下において求められている授業場面がふんだんに取り入れられた問題となっていました。例えば、中学校の国語では、自分のスピーチを動画に記録して友達から助言をもらう場面が設定されています。どのような場面設定か、どのように問われている問題か、といった視点で調査問題を知る取組を行っていただきたいです。



今回の調査結果を受けて、教科の課題として見えてきたこととして、「知識や技能を活用すること」や「問題場面を捉えて、目的に応じて自分の考えを書いたり説明したりすること」を挙げました。詳しく見ていくと、国語科では「書くこと」に関して、算数・数学科では「変化と関係」「関数」などに課題がみられます。「やまぐち学習支援プログラム」の効果的な活用や、「振り返り」に注目した授業改善の充実等により、浮かび上がってきた学力課題の解決に向けて、取組を進めていきましょう。

各学校の結果とともに、平均正答率などの統計データが提供されています。そのデータを用いて「どの設問、どの観点で正答率が低いか」に着目して分析を行います。その際に「どのような誤答が多かったか」を確認し、「なぜそのような誤答になったか」を考えることで、日頃の授業の改善点が具体的に見えてきます。

県が作成している「誤答分析の一例」については、右のQRコードから読み取れますので、国が示している報告書の「解答類型と反応率」（2ページ目のQRコード）を確認しながら、全校体制で誤答分析に取り組み、子どもにとってよりよい授業をめざしましょう。

